



# CLI ベースのセットアップ プログラム によるスイッチの設定

この章では、スイッチの簡単なインストレーションおよびセットアップ手順について説明します。



(注)

ラックへのスイッチの設置、または Small Form-Factor Pluggable (SFP) モジュールの接続に関する詳しい手順は、[第 2 章「スイッチのインストレーション」](#)を参照してください。製品概要については、[第 1 章「製品概要」](#)を参照してください。

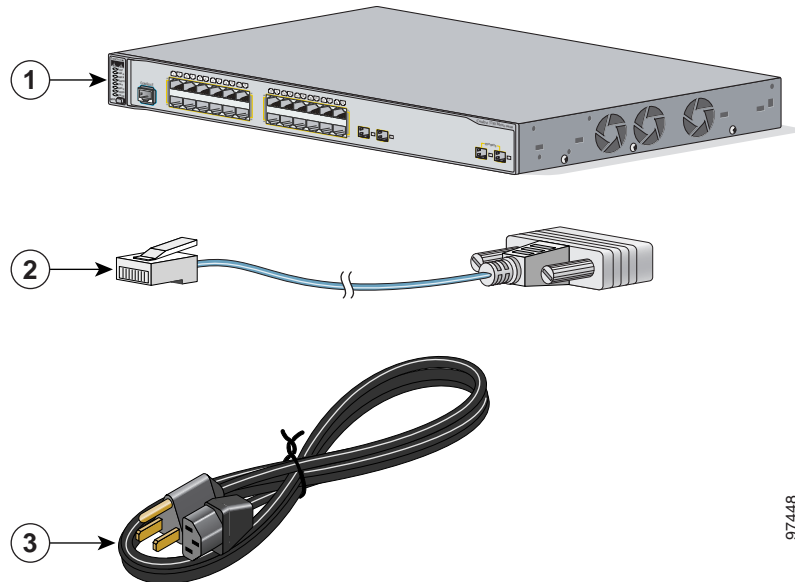
簡単なインストレーション方法を次の手順で説明します。

1. [必要なものの準備 \(p.C-2\)](#)
2. [コンソールポートへの接続 \(p.C-3\)](#)
3. [端末エミュレーションソフトウェアの起動 \(p.C-4\)](#)
4. [電源接続 \(p.C-5\)](#)
5. [初期設定情報の入力 \(p.C-6\)](#)
6. [イーサネットポートへの接続 \(p.C-9\)](#)

## 必要なものの準備

図 C-1 に示されているものを梱包箱から取り出します。

図 C-1 Catalyst 3750 Metro スイッチ、アダプタ ケーブル、および AC 電源コード



97448

1	スイッチ	3	AC 電源コード
2	RJ-45/DB-9 アダプタ ケーブル		



(注) DC 電源装置を使用する場合のスイッチのセットアップ手順については、「[DC 電源への接続](#)」(p.3-5) を参照してください。



(注) スイッチ ポートを他のイーサネット装置に接続するには、別途カテゴリ 5 以上のストレート ケーブルが必要です。

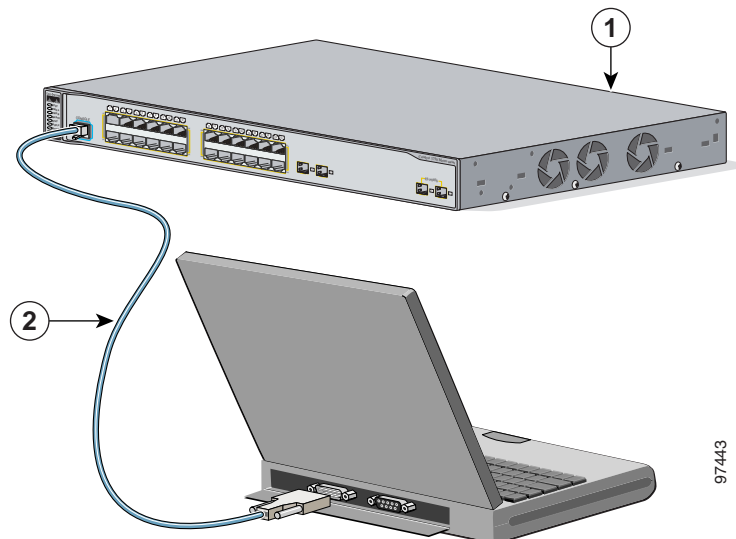
## コンソールポートへの接続

コンソールポートを通じて初期設定を行うことができます。スイッチのコンソールポートと PC の接続には、付属の RJ-45/DB-9 アダプタ ケーブルを使用します。

次の手順で、PC または端末をスイッチに接続します。

- ステップ 1** 付属の RJ-45/DB-9 アダプタ ケーブルを使用して、スイッチ前面のコンソールポートに RJ-45 コネクタを接続します (図 C-2 を参照)。
- ステップ 2** アダプタ ケーブルの DB-9 メス DTE アダプタを PC のシリアルポートに取り付けるか、または適切なアダプタを端末に取り付けます。

図 C-2 PC とスイッチの接続



1	スイッチ	2	RJ-45/DB-9 アダプタ ケーブル
---	------	---	----------------------

## 端末エミュレーションソフトウェアの起動

スイッチの電源をオンにする前に、Power-on Self-Test (POST; 電源投入時セルフテスト) の出力表示を見ることができるよう、端末エミュレーションセッションを開始します。

端末エミュレーションソフトウェア (通常、ハイパーターミナルまたは Procomm Plus などの PC アプリケーション) によって、スイッチと PC または端末との通信が可能になります。

---

**ステップ 1** PC または端末を使用して、端末エミュレーションプログラムを起動します。

**ステップ 2** 端末エミュレーションセッションを開始します。

**ステップ 3** コンソール ポートのデフォルト特性に合わせて、PC または端末のボーレートおよびキャラクターフォーマットを次のように設定します。

- 9600 ボー
  - 8 データ ビット
  - 1 ストップ ビット
  - パリティなし
  - フロー制御なし
-

## 電源接続

電源接続は、次の手順で行います。

- 
- ステップ 1** AC 電源装置を使用する場合、AC 電源コードの片側をスイッチのスイッチ背面パネルの電源コネクタに接続してから、電源コードのもう一方をアースされた AC 電源コンセントに接続します (図 C-2 を参照)。
- ステップ 2** DC 電源装置を使用する場合の DC 電源装置への接続手順については、「[DC 電源への接続](#)」(p.3-5) を参照してください。

スイッチの電源が入ると、POST という一連のテストが自動的に実行され、スイッチが正常に機能しているかどうかを確認されます。

POST の実行時間は約 1 分です。POST が完了すると、SYST LED と STAT LED はグリーンに点灯したままになります。機能上のステータスによっては、PWR LED と MASTR LED もグリーンに点灯する場合があります (詳しくは「[LED](#)」[p.1-5] を参照)。

POST に失敗すると、SYST LED がオレンジに点灯します。POST が失敗した場合は、[第 4 章「トラブルシューティング」](#) を参照して原因を特定してください。



---

**(注)** POST エラーは通常、修復不能です。スイッチが POST に失敗した場合には、購入された代理店にご連絡ください。

---

スイッチの電源をオンにする前に、端末エミュレーション プログラムを起動しておけば、PC または端末にブートローダ シーケンスが表示されます。セットアップ プログラムのプロンプトを表示するには、Enter キーを押す必要があります。

## 初期設定情報の入力

スイッチを設定するには、セットアップ プログラムを完了する必要があります。セットアップ プログラムは、スイッチの電源がオンになると自動的に実行されます。スイッチがローカル ルータやインターネットと通信できるようにするには、IP アドレスおよびその他の設定情報を割り当てる必要があります。

## IP の設定

セットアップ プログラムを実行する前に、ネットワーク管理者から次の情報を入手してください。

- スwitchの IP アドレス
- サブネット マスク (IP ネットマスク)
- デフォルト ゲートウェイ (ルータ)
- イネーブル シークレット パスワード
- イネーブル パスワード
- Telnet パスワード

## セットアップ プログラムの完了

次の手順でセットアップ プログラムを完了し、スイッチの初期設定を作成してください。

**ステップ 1** 次の 2 つのプロンプトに **Yes** と入力します。

```
Would you like to enter the initial configuration dialog? [yes/no]: yes
```

```
At any point you may enter a question mark '?' for help.  
Use ctrl-c to abort configuration dialog at any prompt.  
Default settings are in square brackets '[]'.
```

```
Basic management setup configures only enough connectivity  
for management of the system, extended setup will ask you  
to configure each interface on the system.
```

```
Would you like to enter basic management setup? [yes/no]: yes
```

**ステップ 2** スwitchのホスト名を入力し、**Return** キーを押します。

ホスト名の文字数は 28 文字までです。どのスイッチも、ホスト名の最後の文字として -n (n は数字) を使用することはできません。

```
Enter host name [Switch]: host_name
```

**ステップ 3** イネーブル シークレット パスワードを入力し、**Return** キーを押します。

このパスワードは 1 ~ 25 文字の英数字で指定できます。先頭の文字を数字にしてもかまいません。大文字と小文字が区別されます。スペースも使えますが、先行のスペースは無視されます。シークレット パスワードは暗号化されますが、イネーブル パスワードはプレーン テキストです。

```
Enter enable secret: secret_password
```

**ステップ 4** イネーブル パスワードを入力し、**Return** キーを押します。

```
Enter enable password: enable_password
```

**ステップ 5** 仮想端末 (Telnet) パスワードを入力し、**Return** キーを押します。

このパスワードは 1 ~ 25 文字の英数字で指定できます。大文字と小文字が区別されます。スペースも使えますが、先行のスペースは無視されます。

```
Enter virtual terminal password: terminal-password
```

**ステップ 6** (任意) プロンプトに従って、SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) を設定します。SNMP は、CLI (コマンドライン インターフェイス) を使用して、あとで設定してもかまいません。あとで SNMP を設定する場合は、**no** を入力します。

```
Configure SNMP Network Management? [no]: no
```

**ステップ 7** 管理ネットワークに接続するインターフェイスのインターフェイス名 (物理的なインターフェイスまたは VLAN [仮想 LAN] の名前) を入力して、**Return** キーを押します。このリリースでは、インターフェイス名には必ず **vlan1** を使用してください。

```
Enter interface name used to connect to the  
management network from the above interface summary: vlan1
```

**ステップ 8** インターフェイスを設定するために、スイッチの IP アドレスとサブネット マスクを入力し、**Return** キーを押します。次に示されている IP アドレスとサブネット マスクは単なる例です。

```
Configuring interface vlan1:  
Configure IP on this interface? [yes]: yes  
IP address for this interface: 10.4.120.106  
Subnet mask for this interface [255.0.0.0]: 255.0.0.0
```

**ステップ 9** このスイッチをクラスタ内のコマンドスイッチとして設定することはできないため、ここでは **N** を入力します。

```
Would you like to enable as a cluster command switch? [yes/no]: no
```

これで、スイッチの初期設定は完了しました。初期設定が表示されます。以下に出力例を示します。

```
The following configuration command script was created:
hostname switch1
enable secret 5 $1$U1q8$D1A/OiaEbl90WcBPD9cOn1
enable password enable_password
line vty 0 15
password terminal-password
no snmp-server
!
no ip routing

!
interface Vlan1
no shutdown
ip address 10.4.120.106 255.0.0.0
!
interface FastEthernet1/0/1
!
interface FastEthernet1/0/2

interface FastEthernet1/0/3
!
(テキスト出力は省略)
!
interface GigabitEthernet1/1/2
!
end
```

次のような選択肢が表示されます。

```
[0] Go to the IOS command prompt without saving this config.
[1] Return back to the setup without saving this config.
[2] Save this configuration to nvram and exit.
```

設定を保存してスイッチの次回起動時に使用する場合は、オプションの 2 を選択して、設定を NVRAM（不揮発性 RAM）に保存します。

```
Enter your selection [2]:2
```

**ステップ 10** いずれかを選択して **Return** キーを押します。

---

セットアッププログラムの完了後は、作成したデフォルトの設定でスイッチを稼働させることができます。この設定の変更や他の管理タスクを実行する場合には、CLI を使用します。

CLI を使用するには、端末プログラムによってコンソールポートから、あるいは Telnet によってネットワークを介して、Switch> プロンプトにコマンドを入力します。設定情報については、スイッチのソフトウェア コンフィギュレーションガイドまたはスイッチのコマンドリファレンスを参照してください。

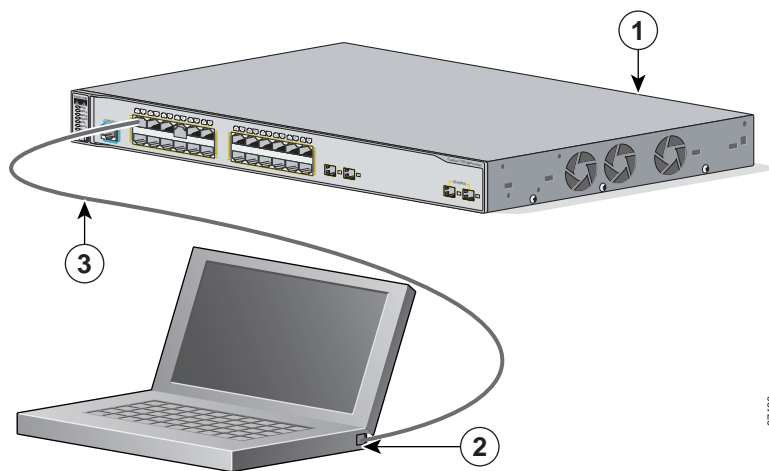


## イーサネット ポートへの接続

10/100 または 10/100/1000 イーサネット ポートへの接続手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** スイッチの前面パネルの 10/100 ポートに、カテゴリ 5 のストレート ケーブル（付属外）を接続します（[図 C-3](#) を参照）。
- ステップ 2** ワークステーション、PC、サーバ、またはルータのイーサネット（RJ-45）ポートに、ケーブルのもう一方の端を接続します。

図 C-3 前面パネルのポートへの接続



1	スイッチ	3	カテゴリ 5 のストレート ケーブル
2	PC		

SFP ポートの接続については、「[SFP モジュールの接続](#)」(p.2-21) を参照してください。

97428

■ イーサネット ポートへの接続